

① 福島県内での復旧・復興時の放射線量測定等

消防本部等が使用する旧警戒区域内で発生した火災による影響評価ツールを見直した。JR常磐線（広野～竜田間）軌道の放射性物質分布を調査した。この結果に基づき、JR東日本が全体調査を実施中。旧警戒区域内に保管・残置された毒劇物、危険物の持ち出し時の測定を行い、災害からの復旧・復興作業における作業従事者の安全確保に資する情報を提供した。



常磐線軌道の調査

② 住民一時立入のための支援業務

平成25年度上半期は、主にマイカー等による住民の方々の一時立入りや南相馬市による8月10日～18日の間に短期間宿泊される住民対応の支援に関し、延べ約120人を現地に派遣し対応した。

③ 福島暫定オフサイトセンターにおける取り組み

JNES職員を2名常駐させ、現地対策本部のニーズに対応した各種支援実施（資機材等手配、各種調査、下半期実施予定の福島暫定OFC内訓練の検討に対する助言など）

また、火災や地震発生時など緊急時に24時間体制で福島暫定OFCへ参集し対応（上半期実績：9/20早朝の福島県浜通りを震源とする地震に伴う参集）

④ 地震・津波に対する原子力プラント及び周辺地域を考慮した防災システム(TiPEEZ)の研究

地震・津波等自然災害と原子力災害の複合災害事象に対する防災システム「TiPEEZ」について、柏崎刈羽地域での運用を事例として、新潟工科大学、柏崎市、市民等のニーズにあった運用コンセプトの検討を実施した。



市民・地元メディアへのデモンストレーション
(第3回実施 平成25年8月20日)